

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 58 号

2006年9月



小野川探勝路観察会

8月27日(日)に小野川探勝路観察会を実施しました。参加者は23名でした。今回は小野川探勝路を曽原側から入り散策しました。500mごとに道標が設置されるなどハイキングコースとして整備されたコースでしたが、他の入山者にはほとんど会うことなく、静かな環境の中で観察をすることができました。コース前半はブナやミズナラ、トチノキ、カツラ、オヒョウなどを中心とする渓谷林が残っており、森から湖畔に吹きぬける爽やかな風の中、ところどころに味わいのある形をした大木の姿を楽しむことができました。

また、このコースは沢が豊富で、ミゾホオズキ、ジャコウソウ、ツリフネソウ、キツリフネソウ等の水辺を好む花を観察することができました。特に、ジャコウソウは群落を形成し、花も豊富でしたので貴重な植物の美しい姿を思い思いに堪能しました。この他にアキノギンリョウソウやヤマブドウの虫こぶなどの珍しい自然の営みも観察することができました。ヤマブドウの虫こぶはヤマブドウハトックリフシというものでタマバエの黄色い幼虫が入っています。この虫こぶは9月ごろに地面に落ちて幼虫は其中で越冬するそうです。



ジャコウソウ



ヤマブドウハトックリフシ

私にとってカタクリの会の自然観察会に参加することは、ほとんど夢だった。湯田というところにどうやって行くのかわからない遠い遠いところだった。しかし、ひょんなことから湯田に行く道筋がついたのだ。沢を何度も渡りながらの滝みのコースだというので沢登りなどできないからと一度諦めた。しかし、遊歩道を歩くのだという情報を得て、安心して参加を決めた。

長靴で山を歩くことにはかなり抵抗があったけれど、このコースは長靴を履かなくては歩けない。流れが速くて深いところもある。しかも、何度も何度も川を渡るのだ。必死に歩いているうちに、長靴にも慣れてきた。滝の裏側に入ることもできた。

珍しい花に出会えたのもうれしい。小さくてかわいい清楚な花にも惹かれる。ショウキラン、カキラン、コアニチドリなどは初めて見る花だ。ヒメヘビイチゴ、コナスビ、ダイコンソウ、ミゾホオズキなど、黄色の花が沢すじに明かりを燈すように咲いている。ウリノキの花にここでも会えた。アクシバはまだ蕾だった。ツルアリドオシの白く小さい花がペアで咲きながら、実が一個だけだという。その赤い実にはえくぼが二つできる。それを確かめることもできた。

セロリの味がする葉、すっぱい味のカタバミ、ヒトツバヨモギはハーブの香りがする。猫の舌のようなオヒョウの葉。噛んだり、嘗めたり、嗅いだり。五感を使つての観察を充分に楽しませてもらった。

川を渡り終え、きつい段差の岸を這うようにして上がる。そこで目にした白いふさふさした花。何？葉を見る。五裂した大きな葉だ。わからない！瀬川さんにオニシモツケだと教えてもらおう。それからはずうっとオニシモツケ通りになった。斜面にもオニシモツケが群生している。その光景は実に見事だ。一株だけだったが、ミヤマカラマツが花も葉っぱも優しくやわらかに咲いていた。

先頭が興奮している。ナニゴト？冬虫夏草だって！今までにない緊張した空気が漂っていた。見ると、それはオレンジ色のお箸の先がひょろっと突き出ているような感じのものだ。この下にはサナギがある



どうぞお入りください



サナギタケ



ショウキラン

はずだと瀬川さんが説明している。写真を撮ってから、瀬川さんが根元をそっと掘ると、確かにサナギの抜け殻が付いていた。おうっ！と感嘆の声が上がる。それ以降、斜面をなめるように観察している方が目に入った。

滝も素晴らしかった。姥滝では陽子さんが滝の裏側から手招きしている。その魅力に惹かれて私も入った。ここでは何でもできる。楽しかった。そして、夢がかなった喜びと珍しい花々に出会えた興奮を残しながら帰途についた。

会津地域における森林生態系保護地域設定等、国有林保護計画の概要について

高橋 淳一

生態系保護地域&緑の回廊位置図（林野庁図面）

福島県会津地域には、吾妻山を始め、飯豊山、田代山、帝釈山、会津駒ヶ岳、燧ヶ岳など2000mを越える山岳が連なっている。また、これらの峰々の周辺には、標高1000m前後ではあるが、ブナを中心とする原生的な森林が広がっており、特に豪雪地として有名な只見町周辺には3万4千ヘクタールに及ぶブナ原生林が残されている。また、絶滅が危惧される、イヌワシやクマタカなど希少な猛禽類の代表的な生息、繁殖地となっている他、ツキノワグマ、カモシカなどの大型哺乳動物の繁殖地としても注目されている。2003年には、世界遺産の候補地となるなど、専門家、研究者からも高い評価を得ている地域である。

他方、これらの森林の多くは国有林であり、全国的な乱伐によって、伐採対象が限定される中において、本地域も2001年には大規模な伐採計画が林野庁から表明された。これに対し、地元自然保護団体である「日本野鳥の会南会津支部」をはじめ、関東地方の諸団体による積極的な運動により、

計画が凍結された。また、後に違法伐採が発覚するなど、当局側の不手際もあり、2003年11月23日「第24回東北自然保護の集い・福島大会」において、関東森林管理局より全面禁伐の方針が示され、具体的な保護計画に着手することとなり、今回の「奥会津森林生態系保護地域」並びに「緑の回廊」の設定に至った。これらの保護計画では、拡張される「飯豊山周辺」「吾妻山周辺」の既設生態系保護地域を含めた生態系保護地域全体の面積は、約9万2千9百ヘクタールとなり、その他の保護林（植物群落保護林等：約580ヘクタール）を含めた保護林全体では会津地域の国有林20万5千ヘクタールの約46パーセントとなる。さらに、残る国有林についても、「緑の回廊」として高齢級の天然林は禁伐的な扱いとなることがほぼ確定した（約10万5千4百ヘクタール）。

なお、具体的な計画概要は以下のとおりである。

1. 新設「奥会津森林生態系保護地域」

（1）対象地域

南西部（尾瀬周辺部）の田代山、帝釈山、会津駒ヶ岳、燧ヶ岳から中西部（只見町周辺部）の会津朝日岳、浅草岳、御神楽岳一帯

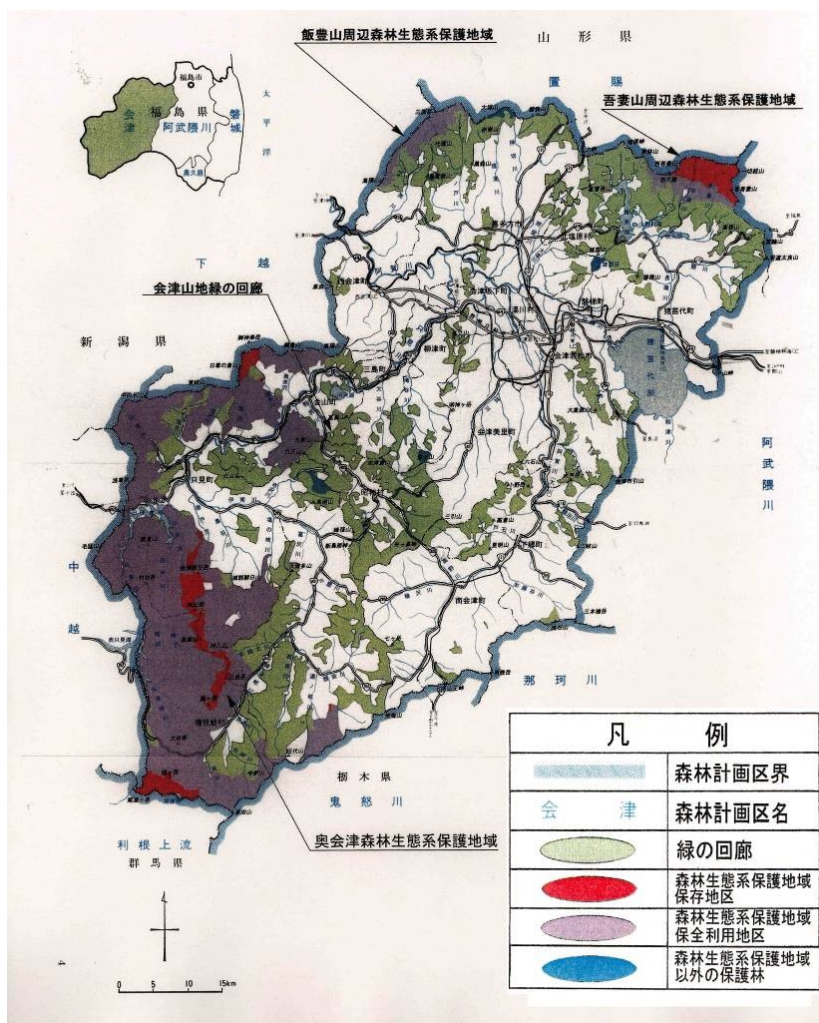
（2）対象面積

区 分	保存地区 (ha)	保全利用地区 (ha)
面 積	7715.47	76175.38
合 計 面 積	83890.85	

2. 既設「飯豊山周辺森林生態系保護地域」の拡張

（1）対象地域

南西部（西会津町）の鏡山、高陽山一帯並びに南東部（山都町）飯豊山登山道・川入周辺



(2) 拡張面積（福島県側）

区 分	保存地区 (ha)	保全利用地区 (ha)
既設面積		8 6 2 . 4 0
拡張面積		2 1 9 3 . 5 6
合計面積		3 0 5 5 . 9 6

3. 既設「吾妻山周辺森林生態系保護地域」の拡張

(1) 対象地域

南部地域（猪苗代町）の中吾妻山中腹部並び西部地域（北塩原村）西大巓（グランデコスキー場隣接部）矢筈山、東鉢山入周辺

(2) 拡張面積（福島県側）

区 分	保存地区 (ha)	保全利用地区 (ha)
既設面積	4 1 3 3 . 9 7	3 6 7 0 . 2 4
拡張面積		3 9 3 . 4 7
合計面積	4 1 3 3 . 9 7	4 0 6 3 . 7 1
総合計面積	8 1 9 7 . 6 8	

酸ヶ平のトイレと兎平キャンプ場の改修工事について

鈴木 勝美

昨年から吾妻山酸ヶ平避難小屋のトイレ増設工事と兎平キャンプ場の改修工事が行われていましたが、先日(平成 18 年 7 月 1 日)その状況を見てきました。

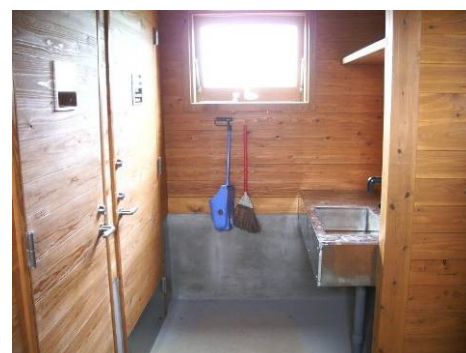
酸ヶ平のトイレは避難小屋が小さく見えるような立派なトイレでした。バイオ用トイレと汲み取り式のトイレがそれぞれありますが、中はハエが飛んでいたり手押しポンプの水は出る様子がなかったりで、循環型のバイオ浄化システムはまだ動いていないようでした。

また、入り口にはチップ投入口が設けられています。各自の自然に対する意識と良心を喚起する目的といえるでしょう。みなさま御協力をお願いします。これで小屋周辺の状況は改善されることでしょう。

兎平のキャンプ場ですが、駐車場から吾妻小舎近くまで舗装された道路にはがっかりですが、トイレ棟は建物近くまで樹木を残して建てられており、キャンプ区画や炊事棟をつなぐ道も砂利敷き、木道、施工なしと場所に合った工事がされているように見えました。

キャンプ区画自体もあまり手が加えられず、最低限の工事にとどめられているようです。また管理棟はログハウス風で立派になっていますが、団体の利用が多いであろう利用形態を考えれば致し方ないところでしょうか。

今回の改修工事は、概ね妥当な施工がなされているようです。



酸ヶ平避難小屋のトイレ



協力金投入口



兎平キャンプ場管理棟



兎平キャンプ場

4 カシ
榿

ぶな科 コナラ属

牧野： 堅木を合わせる

広辞苑： イカシ（巖し）の上略形か。榿、櫓、櫛
特にあかがしを言う。

榿の仲間

5 イチイガシ（イチイ、イチガシ）
櫟

ぶな科 コナラ属

6 カシワ（カシワギ、モチガシワ）

ぶな科 コナラ属

柏 炊（かしき）葉の意、食物を盛る葉

語源： 食物を盛るだけでなく、この葉に包んで蒸した

7 ウバメガシ（イマメガシ、ウマメガシ）

ぶな科 コナラ属

牧野： 姥目榿 若葉が褐色であるから

語源： 姥芽榿 「牧野では姥芽の意味であると説明している」と書いてあるのに当の
牧野図鑑では姥目榿となっている。牧野図鑑の誤植か。

姥女榿 葉の表面が波打っているのを皺に見立てた。

広辞苑： 姥女櫛

8 シラカシ（クロガシ）

ぶな科 コナラ属

白榿

牧野： 材が白いから、福島県以南

磐梯吾妻スカイラインには、吾妻八景なる名所があり、高湯口からの最初が「白樺の峰」である。ここを通過するときバスガイドは、「ここは吾妻八景の一つ白樺の峰であります。白樺には色々種類があってこの白樺は岳樺といいます」と説明する。そこで白樺について。

9 シラカバ（シラカンバ、カンバ、樺の木）

かばのき科 シラカバ属（牧野）
カバノキ属（山溪名鑑）

白樺 樹皮が白い

牧野： 「カンバ」は古名「カニハ」の転化

語源： 樺 アイヌ語「カリンパ」から「カニハ」に。金田一京助

後記ウダイカンバと共に樹皮が雨中でも燃えるので、「あかり」として用いられた。

「華燭の典」の華は樺の意。昔中国で結婚式に樺の皮を蠟燭とした。

10 ダケカンバ（そうしかんば）

かばのき科 シラカバ属（牧野）

カバノキ属（山溪名鑑）

* カバノキ属が正しいと思うが、シラカバ属であれば、バスガイドの説明もあながち間違いではないか。

岳樺（草紙樺）

牧野： 山嶺に生えるから

語源： 樹皮は剥がれて文字が書ける。草紙樺

* 白樺の峰付近を地元では「てらし平」と呼んでいた。

11 ウダイカンバ

語源： 鵜松明樺の略、鵜飼の松明に使われたから。

広辞苑： 鵜松明（うたいまつ） 雨中の鵜飼用の松明、白樺の皮を用いる。



カシワ

東北ブナ紀行 (23)

奥田 博

岩手県の奥羽山脈には素晴らしいブナ林が多く点在している。しかし太平洋側にもわずかだがブナ林は散見される。宮城県・金華山の海に面したブナは有名だが、三陸海岸近くにもブナの山はあった。霞露ヶ岳は、半島に残されたブナ、五葉山はブナ原生林に遷移していく過程が見られる将来が楽しみな森である。どちらも気軽に登れる山だけに、公園化されないことを祈っている。

4 3) 岩手・霞露ヶ岳 (かろうがたけ)

三陸海岸・山田町の半島にそびえる標高わずか500mあまり。この山には、海拔0mの海岸が登山口ということだけでも魅力的な山であるが、山頂付近には太いブナも散見された。

登山口の波打ち際で、太平洋の荒波を受けて出発。潮騒を聞きながら、急坂をグイグイ高度を上げていく。せり出した尾根からは、美しいリアス式海岸が見下ろせる。アカマツの多い森を登るが、林床にはクロモジ、オオカメノキ、ヤマツツジなどの灌木が見られる。急坂を終えて尾根をたどれば、本州最東端のトドヶ崎灯台が眺められる。

次第にアカマツに代わって、コナラやシデ類、カエデ類などの雑木林となる。次の尾根ではアカシデを主にブナなどが混じり出した。次の尾根では見事なブナが優先する森になる。距離にして500mの間で、次々と主役が代わるのは自然の妙。山頂近くでは太いブナも見られる。山頂は森に囲まれて好ましいが、唯一「環境省」製なる不似合いな大きな看板が、雰囲気壊していた。下りは南の尾根を下ったが、イヌブナがまるで迷子のようにポツンとあった。まったく不思議な森だった。

海岸 (2時間) 山頂 (1時間30分) 下山口 (30分) 海岸



霞露ヶ岳のブナ林に行く

4 4) 岩手・五葉山

五葉山のメインコースである赤坂峠から山頂への道には、立派なブナ林は存在しない。わずかに、中腹のミズナラ林に混じっているだけだ。しかも森全体にイエることだが、樹径は細く、まだ50年前後の若い木々が多い。この山は、伊達藩や南部藩の御用林であったというから、昔からこの山の木々は伐採されて藩に供給されていたのかも知れない。

登山口近くの道路沿いでも、製紙会社所有の民有林がミズナラやコナラ主体の見事な森を見せている。登山道沿いは、「五葉山自然観察教育林」に指定されている。こんな林は聞いたことがないが、指定はともかく行き交う登山者の何人が、この森の素晴らしさを感じているだろうか。三合目の賽の河原を過ぎると、森の中を歩くようになり、畳石の鳥居を潜って五合目周辺は実に美しい森が形成されている。今はナラを主体にした森だが、今後数百年かけてブナ林に遷移していく楽しみな森である。

赤坂峠 (45分) 畳石 (1時間) 山頂 (1時間30分) 赤坂峠



五葉山の自然観察教育林



カラスシキミ (*Daphne miyabeana* ジンチョウゲ科ジンチョウゲ属)

山地に植生する常緑小低木で雌雄異株。標高 1000m 前後のミズナラ林からブナ林帯の林床に植生する。群落を形成することではなく、2、3 株が点在する。葉は互生し、形は細長い披針形で先はとがる。表面は革質で濃緑色をしており光沢がある。触ると独特の弾力と質感があり、彫りこんだように葉脈が走る。葉縁は滑らかでやや裏側に巻き込んでいる。花は頂性で新枝の先端に数輪～十数輪の筒状の質感のある白い小花を上向きに咲かせる。花卉のように見えるのはガクで花卉はない。小花の先端は 4 裂する。雄しべは 4 個。



属名の *Daphne* (ダフネ) は、ギリシャ神話に出てくる美しい女神の名前に由来する。エロス (キューピッド) が悪戯心からアポロとダフネに金 (恋心を抱く矢) と鉛 (恋心を拒む矢) の矢を射たために、ダフネはアポロから逃れ月桂樹に化身した。悲しんだアポロはダフネへの愛の永遠の証として月桂樹の冠を被るようになったという。カラスシキミの白い花はこの神話の無垢の女神のイメージにふさわしいと思う。和名のカラスは「シキミ (柘)」との比較から株丈あるいは花の大小を指しての命名のようである。カラスシキミは「シキミ」とは異種の植物であるが、劇物指定の猛毒を含む「シキミ」同様、果実は毒である。

「花紀行」の取材で額取山と甲子山でオレンジ色の果実に出会い、龍ヶ岳で初めてカラスシキミの花を見ることができた。その時は運悪くフィルムを使い切っており、本種は群落を形成しないことから再見は困難だろうと思い、花の撮影はあきらめていた。その同じ年に、高山で花が咲いている個体を見つけた山内氏から連絡をもらった。もう夕方に近かったが、急いで林道を駆け登って、その美しい姿を撮影することができたのは幸運であった。その後、裏磐梯の観察会でも度々確認されている。これらの事実は、日本海多雪地帯型に分類されている本種の分布特性を裏付けているようである。

イワイチョウ (*Fauria crista-galli* ssp. *japonica* ミツガシワ科イワイチョウ属)

亜高山や高山の雪田や湿原の池塘周辺に群生する多年草。1 属 1 種である。別名を「ミズイチョウ」と言う。分布のタイプは日本海多雪地帯型である。アオノツガザクラ、ヒナザクラ、チングルマと並んで、西吾妻山域を代表する雪田植物である。地上部は数個の根生葉とその中心部から伸びた花茎の先端に数個～十数個の小花を咲かせる集散状花序で構成される。葉は互生で葉柄は長い。葉の表面は光沢があり、葉身は円形で先端部はゆるくへこみ、縁には揃った鋸歯がある。名前の由来は葉の形をイチョウの葉に見立てたもの。花冠は白色で漏斗状に咲き、先端は 5 裂するのが基本だが 6 裂している花も見られる。裂片中央には縦ひだ、縁にはフリルを連想させる波状のしわがある。種小名の *crista-galli* は「雄鶏のとさか」という意味で、裂片中央のひだから連想したもの。



ミツガシワと同様に、イワイチョウの花には柱頭が長く雄しべの短い長花柱花と、雄しべが短く柱頭の長い短花柱花がある (二型花柱性植物と呼ばれる)。同タイプ間の受精では結実せず、異型同士の交配でのみ種子ができる。群落では 2 つのタイプの個体が 1 : 1 の分離比で植生する。これは遺伝的に長花柱花が劣性ホモで短花柱花がヘテロであることによる。西吾妻を植生の南限とするヒナザクラも二型花柱性植物である。この 2 種類の花は西吾妻では同じ場所に隣接して群落を形成しているが、開花にいたるまでの環境適応性が異なる。ヒナザクラは融雪後、温度の上昇 (正確には有効積算温度) に依存して開花するが、イワイチョウは葉の展開までは温度に、花芽形成・開花は日長に依存する。日長は年による変動が少ないため、イワイチョウの花は毎年、一定の時期に開花する。しかしヒナザクラの生育は、融雪の時期とそれ以後の気温経過に密接に反応するため、年により開花時期が異なることが多い。

第 86 回自然観察会：早稲沢遊歩道紅葉観察会

日時：10 月 22 日（日）7：30～16：30 参加定員 20 名

集合場所：四季の里正面入口交差点駐車場 集合時間：7：20

（または五色沼ビジターセンター駐車場 8：30 集合）

内容 早稲沢から布滝を経て百貫清水まで散策し、溪谷林とブナ林の紅葉を観察します。観察会終了後、芋煮会です。

日程 7：20 集合－7：30 四季の里発－8：45 ビジターセンター駐車場発－9：10 早稲沢遊歩道駐車場
10：10 布滝 11：00 百貫清水 12：00－14：00 布滝（芋煮会）－15：00 早稲沢遊歩道駐車場発－16：30 四季の里

準備するもの：登山靴（長靴）、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（複数）、着替、昼食

参加費用 保険代 300 円（当日）

申し込み 10 月 21 日（土）まで

＊その他不明な点があればご相談下さい。

参加申込先：高橋淳一（TEL 024-593-1990）または佐藤守（TEL 024-593-0188）電話またはメールにて返信ください。（電話申込はいずれも夜間 7 時～9 時でお願いします）

第 87 回自然観察会：熱海けやきの森観察会

日時：11 月 26 日（日）7：30～17：00

集合場所：四季の里正面入口交差点駐車場 集合時間：7：20 参加定員 30 名

内 容：本宮町の最高峰、大名倉山と郡山市のケヤキ自然林を散策し、公共機関による最近の自然公園整備のあり方について検討します。ユラックス熱海で汗を流した後、総会です。

準備するもの：登山靴（長靴）、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（複数）、着替、昼食

日 程：四季の里 7：30－8：30 大名倉山登山口――大名倉山――10：00 登山口－10：40 けやき森駐車場（観察会）12：00 駐車場－12：10 ユラックス熱海（入浴）－13：00～16：00 総会

総会会場：郡山ユラックス熱海第 4 会議室

参加費用 700 円（当日：内訳 保険代 300 円＋入浴料 400 円：ただし観察会のみ参加者は保険代のみ）

申し込み 11 月 25 日（土）まで

参加申込先：高橋淳一（TEL 024-593-1990）または佐藤守（TEL 024-593-0188）

電話またはメールにて返信ください。（電話申込はいずれも夜間 7 時～9 時でお願いします）

＊その他不明な点があればご相談下さい。

新年度の会費納入をお願いします：郵便振替 02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

【編集後記】■会津地域の森林生態系保護地域及び緑の回廊の指定地域の設定が完了した。「高山の原生林を守る会」としては、林班図に基づいて、具体的な提案書を提出して委員会に望んだ。「中吾妻のブナ林」、「二十日平のブナ林」、「浅草岳のスキー場」の保護地域への組み入れと飯豊山域の本県側の保護地域拡張等をポイントに提起した。結果は、ほぼ全ての要望が最終案に盛り込まれた内容となった。地元との運用面での調整等、今後の課題はいろいろあるだろうが、森林管理局の今後の対応を見守って生きたい。■森林保護が地元利益と対立するとの視点もあるようである。山村の実態はすでにそのレベルを超越しており、その論点の前提が崩れているものと考えるが・・・。

「高山」高山の原生林を守る会会報 第 58 号 2006 年 9 月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：高橋淳一 Phone 024-593-1990（夜間 7 時～9 時）

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費（500 円）を添えて上記まで

編 集：奥田・佐藤・山内・鈴木